

# 平成27年度 見附市特別活動部 活動報告

部長 吉澤 真子

## 1 研究主題

特色ある実践を通して、児童生徒のよりよい生活と個性の伸長を図る。

## 2 研究の概要

○研修テーマに迫るために、特別活動において、「児童生徒を伸ばした」、「いきいきと活動させた」、「わくわくしながら活動させた」などといった特色ある実践を行う。

○実践をまとめ、部員同士で情報交換会を行う。

## 3 研究の実際

- (1) 日時 平成27年9月30日(水) 15:00～16:30
- (2) 会場 見附市立今町中学校 PC室
- (3) 指導者 見附市立第二小学校 校長 堀江 哲 様
- (4) 参加者 市内特別活動部員 12名
- (5) 研修の概要

部員一人一人が研究テーマに沿って実践した学級活動や児童会活動、異学年活動などの実践を持ち寄り、情報交換を行った。まず、学級づくりや児童会活動で新たな取組を取り入れ、それについて得られた成果と課題を一人ずつ発表した。次に、紹介された実践について、良い点や疑問点、改善点について付箋に書き、一人一人からもらった付箋をワークシートに貼り、その付箋を元に意見交換を行った。最後に、堀江校長先生から、教師は見て、まねて、やってみて、技術を身に付けていくことや、新しい取組を行う大切さなど、ご指導をいただき、新たな気づきを得られた研修会となった。

## 4 成果と課題

### ○成果

新たな取組を活動の中に入れることによって、児童生徒が「よりよい学校したい」、「自分たちにできることは何か」を意識して、活動に取り組む姿が見られるようになったり、児童が主体的に係活動に取り組んだり、話し合いに参加したりと、特色ある実践を通して児童生徒の意欲を高めることが分かった。新しい取組の大切さを実感する一方で、その取組をどうしかけて、児童生徒の成功体験に結びつけていくかは、教師がしっかりと見通しを持つことがとても大切であると実感した。

### ○課題

学年に応じた話し合いの進め方や決め方などそのスキルアップを図ることが必要である。話し合いの決め方は常に多数決であり、多数決しか決め方を知らない児童生徒が多い。教師が児童生徒にどう話し合いをさせ、収束させていくか、再度考えていく必要がある。

